



LIXIL

NEWSLETTER

つくる、つなぐ、とどける

リクシルをつくる人

vol.3

株式会社LIXILは、世界中の誰もが願う、豊かで快適な住まいを実現するために、日々の暮らしの課題を解決する先進的なトイレ、お風呂、キッチンなどの水まわり製品と窓、ドア、インテリア、エクステリアなどの建材製品を開発、提供しています。

このニュースレターでは、LIXILの高品質な製品の礎となる日本のものづくりに焦点をあてその取り組みをご紹介します。

発行日：2024年9月30日

品質

人とデジタル技術の両方から作業手順の再現性を高めて
製品の品質の向上を追求する
玄関ドアを製造する石下工場（茨城県）の事例を紹介

LIXILはこれまでも製造における品質の追求は長年取り組んできたが、石下工場では再現性によるアプローチをしている。不具合そのものへの対策ではなく、不具合発生の主因である異常をなくす手法だ。

標準作業を誰もが毎回同じように再現できることに焦点を当てた考え方である。

例えば、製品検査の不具合削減を考えた際、発生時の従業員の状況と対処方法を丁寧にヒアリングし、個々の作業環境の改善を含めた全体を見直した。平行して、作業の標準化のためのデジタル技術も積極的に活用。覚えるのに時間がかかる検査内容をスマホとノーコードアプリを用いたデジタル検査に変更。経験値に関係なく検査内容が瞬時に明確になり、異常が減少した。このような再現性を考えた活動を積み重ねた結果、石下工場は2024年3月期不具合率を前年比16%減した。

老若男女外国人など多様性がある職場では、従業員一人ひとりに配慮した仕事の環境の整備こそが、品質の高い商品の製造につながると信じて、今後も更なる品質向上を進めていく。



（写真）

丁寧な聞き取りや確認は、従業員の心理的安全性が高くなり、質問やアイデアも増える

環境

地域・環境貢献への強い思いで海洋プラスチックを使った
手洗いカウンターづくりに挑戦
洗面化粧台を製造する大谷工場（愛知県）の事例を紹介

愛知県常滑市にある大谷工場と洗面開発部は、自主的に知多半島地域で貢献できる環境活動として、地元の海岸に流れ着く海洋プラスチックを使った手洗いカウンターづくりに挑戦している。常滑市役所と連携し、「海ごみゼロウィーク」に合わせて年2回のビーチクリーンで回収する海洋プラスチックを材料に利用。試行錯誤の後、LIXILの持つ高い樹脂技術をいかして、海洋プラスチックを細かく砕いて原材料に混ぜ込んだ手洗いボウルのプロトタイプモデルを完成させた。23年には常滑市の瀬木保育園に実際に使える手洗いカウンターを寄贈し、園児たちに環境問題を知ってもらうワークショップも実施した。今後も海洋プラスチックの再利用と海洋プラスチック問題の理解を広める活動を継続していく。



（写真）

園児たちの日々の手洗いに利用されている海洋プラスチックを使った手洗いカウンター

エンゲージメント

地域社会との強い結びつきで社内外のエンゲージメントの向上を図る
サッシを製造する岩井工場（茨城県）の事例を紹介

岩井工場は、地域コミュニティとのエンゲージメントに力を入れている。地域小学校への出前授業をはじめ、毎年地域の清掃活動や地元のハーフマラソン大会に積極的に参加するなど、LIXILと地域とのつながりを強化している。その一環で、2024年4月から5年間、坂東市の総合運動体育館施設について市からネーミングライツ（命名権）を取得し「坂東市LIXIL総合体育館」と命名した。総合運動体育館は毎年岩井工場が主催する家族帯同型の従業員スポーツイベント「スポーツフェスタ」の開催場所であり、従業員にとってもなじみが深い。命名権料の一部は、地域のスポーツ振興への寄与と地域社会の活性化に役立てられる。従業員にも好評で会社へのエンゲージメント向上にもつながっている。



（写真）

従業員からは「Googleマップや道路標識、看板でも確認ができてうれしい気持ちになる」、「子どもの部活の大会などでも使う場所なので、地域の方々から声をかけられることも増えた」などの声が聞かれている

LIXILを支える工場のエキスパート

システム開発のスキルと客観的な視点を武器に組織横断で
全体最適を目指す
知多工場 三角武司さん

三角は自身の強みであるシステム開発のスキルをいかし、トイレを製造する知多工場で使用するシステムの運用保守や改修を通じて、工場内の業務効率に取り組んでいる。

三角は、長年同じ担当者が付き、その人にしかノウハウが蓄積されていない状態が続いていた業務を、システムを活用して経験に頼らずに誰もが遂行できる仕組みに変更するなど、課題の解決に役立つシステム開発を行ってきた。



現在は、さらに視座高く、工場としてどれだけ生産性が上がるのか、事業部としてどれだけ利益率を改善できるのかなど、LIXIL全体で効率化と利益を創出する考え方を元に課題解決に取り組んでいる。

「そのためには組織を超えて連携し、共に課題を解決するという土壌をつくるのが大切。LIXILには多様な考えを受け入れ、良いアイデアを積極的に取り入れようとする風土がある。」と話す三角。客観的にLIXILを見ることができるキャリア入社の三角だからこそ、所属する部署や担当領域にこだわらず、組織を超えていろいろな人とコミュニケーションを図り、全体最適を進めるために必要な人と人を組織横断でつなぐ役割を担う。

これからも既存の仕組みや考え方にとらわれず、仲間とともにLIXIL全体での最適解を探す。



◆三角さんの紹介は、[こちら](#)のwebサイトでも紹介されています。ぜひご覧ください。

参考情報

LIXILは、国内では、北海道から沖縄まで34拠点の工場を展開し、日本中に水まわり製品、建材製品をお届けしています。



●LIXILの生産拠点について

<https://www.lixil.co.jp/corporate/recruit/about/workplace/>

●「つくる、つなぐ、とどける」について

現場の第一線で事業活動を支えている工場や開発・設計担当者や工事やメンテナンスを担う人びと、ショールームをはじめとした日々お客さまと接する際の大切にしている想いなどを紹介しています。 <https://www.lixil.co.jp/corporate/brand/employee/>